

柔道の大家で「空気投げ」の特技をみだし、「柔道の神様」とあがめられた三船久蔵十段（最高位）は現在の岩手県久慈市生まれ。現役時代、身長一五九センチメートル、体重五五キログラムと小柄な方でした。

この三船先生の著書の中に「柔道の極意は『円』である。『円』は回転すると『球』になる。球は宇宙で最も安定したものとあります。動物では猫がややそれに近いそうです。高校時代の柔道師範だった松下先生の柔道の極意は、「崩して崩して常に相手の重心を崩し、崩した方に技をかける」でした。

私はこの事を忠実に実践したお陰でインターハイ・国体に出場することができました。逆に言えば崩されたら崩れたら負けに繋がります。

心身も同様、バランスを崩すと体調不良になる。常に物事のバランスを考え、バランスある行動をするべきであります。この「不偏不倚」がなかなかやっかいで難しい。ややもすると、中途半端や優柔不断になりかねない。

自戒の日々であります。不偏不倚を貫いてまいります。



タイトルの「不偏不倚」は、「片寄らない」「バランス」くらいの意味で、私の思いです。



健康づくりにおける連携・協力に関する協定の締結

問合せ 健康増進課 ☎ (42) 8421

1月20日(月)幸手市役所において、幸手市と「中外製薬株式会社」、幸手市と「明治安田生命保険相互会社」は、健康づくりにおける連携・協力に関する協定の締結式を行いました。

▼中外製薬株式会社との協定事項

- 生活習慣病の予防
- がん対策
- 高齢者の健康
- 地域の行政保健師を対象とした学習支援
- 市と医療機関の連携支援
- 健康づくりの推進に関する施策を実現するために必要な事項

▼明治安田生命保険相互会社との協定事項

- 健康診査などの受診率向上への取組み
- がん対策
- 健康づくりの推進に関する施策を実現するために必要な事項

本連携により、生活習慣病予防や高齢者などの健康に関する健康づくり事業を推進し、より一層、市民の健康的な生活の実現を図ります。



子ども議会



市内の各小・中学校から選出された12人の子ども議員は、行政への一般質問をしました。



また、中学生議員は議長として、議事進行も行いました。



子ども議員は、緊張しながらも「通学路の安全確保について」「災害時の避難所につ

いて」「権現堂公園の活性化について」「幸手駅西口の開発について」といった、生活の中で困っていることや気になっていることなどを堂々と質問していました。



議会終了後、子ども議員は「緊張しました！」「市の対策などを知ることができました！」「まちのことに関心を持つていきたいです！」と、緊張が解け、ホッとした表情で感想を述べていました。



問合せ 秘書課 ☎ (43) 1111
1内線 222

ハンセン病家族補償法が成立しました ～偏見や差別のない社会を目指して～

ハンセン病元患者の家族に対し、1人当たり最大180万円の補償金を支給するハンセン病家族補償法が、令和元年11月に成立しました。法律では、国の責任を明確にするために、前文に、「国会及び政府は、深くおわびするとともに、ハンセン病元患者家族等に対するいわれの無い偏見と差別を国民と共に根絶する決意を新たにするものである。」などと記しています。また、ハンセン病をめぐる差別の解消に向けた啓発を行うため、名誉回復の対象に「家族」を加える改正ハンセン病問題基本法も成立しました。

ハンセン病は、感染力が弱く遺伝することはありません。また、早期発見と適切な治療により確実に治すことができます。ハンセン病患者は、治療中でも治療終了後も社会で共に働き、学び、いっしょに過ごすことができます。

しかし、かつて患者を強制的に療養所へ隔離する政策がとられていたことなどから、人々の間に怖い病気として定着してしまい、患者はもとよりその家族も結婚や就職を拒まれるなど、強い偏見や差別を受けてしまいました。今なお、社会における偏見や差別は解消されておらず、そのために療養所の外で暮らすことに不安があり、安心して退所できないという入所者もいます。

ハンセン病について一人ひとりが正しい知識と認識を持ち、偏見や差別をなくし、患者や元患者の方々に温かく迎え入れる社会を実現しましょう。

問合せ 社会教育課 ☎ (43) 1111 内線 642